

# 「性」について考えたことはありますか？

あるお母さんが人権講演会に行き、アンケートを書きました。その中の性別欄に、「男・女・その他」とあり、○をつけるようになっていました。

私は「女」に○をつけたけど、「その他」の性って何なの。性別は、男性と女性の2つでしょ。



今はそんな男と女だけという固定した見方はしないんだよ。



ちょっと一緒に考えてみましょう

「性」とひとことであっても、実はいろいろな要素があります。

- **まごころの性(性自認)**  
「自分は女である」「自分は男である」などが、その人が自認している性別。
- **しぐさ、しゃべり方、服装(性表現)**  
性表現だけで、まごころの性別は判断できない
- **生まれた時につけられた性別(出生時の戸籍上の性別)**  
からだを外から見た特徴や遺伝子の型などによって分けられる性別
- **好きになるひとの性別(性的指向)**  
恋愛感情を持つ相手の性別。その相手は異性だったり、同姓だったり。また、恋愛感を抱かない人もいます。

こうやって改めて考えると、「性」って簡単に「男か女か」で二分できるようなものじゃないのかも知れないね。

一人ひとりそれぞれに個性があるように、「性」のあり方も個人によって少しずつ異なっているよね。よく見ると、ひとりの人間の中にもいろいろな面があるのが見えてくるでしょ。



さまざまな形の性のあり方があって、千差万別であることが分かってきています。女性が女性にひかれる(L)、男性が男性にひかれる(G)、男女どちらの性にもひかれる(B)、外見上の性と心の性が一致しない(T)、自分でもはっきりとしない(Q)などの人がいます。それらの人たちを総称してLGBTQと言います。その割合は13人に1人の割合であるといわれています。

# 虹のように性はさまざま

一人ひとりが異なる性をもっています



「性」のあり方は、多様で、まるで虹の色のようになんとも言えません。性の多様性を表すシンボルとして、世界中で虹(レインボー)のマークが用いられています。

LGBTQの人たちは、自分でそれを選んだわけではありません。性的指向を例にすると、異性を好きになる人もいるし、同性を好きになる人もいるし、また、どちらも好きにならない人もいます。これは、自分の意志や周囲からのおしつけ(ときには脅しや暴力)によって変えることはできません。この違いを感覚的に理解することは難しいかもしれませんが、でもさまざまな性のあり方があるということを知り、「人っていろいろだね。」と思うことが大切です。

「男のくせに」「女のくせに」と言わないで、どんな自分であつてもいいんだと思えるような社会をめざしていきましょう。人と違うことを認め合い、一人ひとりが自分の色でいいと感じる世の中って素敵だと思いませんか。